

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	音楽		
担当者(Instructors)	酒井 国作	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業は教育の場面で必要となる音楽の知識・技能を身に付けることを目的に行う。基礎的な楽曲分析や楽式論、コード和声理論をもとに楽曲の特徴を理解し、その特徴を生かした表現を工夫することにより、音楽的な意図を持ち子どもの音楽活動を支える表現豊かな演奏技能を習得する。提出された課題は添削しコメントをつけて返し、授業での授業者による講評及び学生間の意見交流等を経て理解を深める。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習、および実技形式で行う。クラス内発表では、ディスカッションやグループワークを取り入れる。

■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の意義の理解と自己課題の設定	本授業の意義と授業計画を理解し、自己課題を明確に設定する。楽器の取り扱い、練習室の利用方法の確認をする。	<input type="checkbox"/>
第2回	拍、拍子、リズムの階層的な構造の理解	練習曲の拍、拍子、リズムの階層的な構造を理解して正しく演奏表現する。	<input type="checkbox"/>
第3回	主音を基盤とした音階の理解	練習曲の主音、下属音、属音がわかり、そのはたらきを感受して演奏表現する。	<input type="checkbox"/>
第4回	コードのしくみの理解とコードネーム	コードのしくみを理解し、コードネームから構成音がわかり、基本形と転回形の区別ができるようにする。	<input type="checkbox"/>
第5回	コード分析に基づいた演奏表現と鑑賞	練習曲のコードを判定し、主和音、下属和音、属和音それぞれのはたらきを感受して演奏表現、および鑑賞する。	<input type="checkbox"/>
第6回	動機（モチーフ）と小楽節・大楽節の理解	練習曲上で音楽を生み出すもととなる動機（モチーフ）とそれを繋いだ楽節から音楽構造を説明でき、それを生かした演奏方法を理論と実践から理解する。	<input type="checkbox"/>
第7回	楽節の図式化と基礎形式の理解	小楽節・大楽節から練習曲を分析し図式化して示すことによりどのような形式から曲が構成されているかを知り、その区切りを意識した演奏方法を理論と実践から理解する。	<input type="checkbox"/>
第8回	構成を生かした演奏表現（クラス内発表）	小楽節・大楽節からなる構成の理解に即しそれら部分の性格やはたらきを生かした演奏発表を行い、その良さを互いに聴き合う。	<input type="checkbox"/>
第9回	応用楽式の理解	練習曲の形式を応用楽式（変奏・ロンド・ソナタ・フーガ形式等）との比較から理解し、構成を生かした演奏方法を理論と実践から理解する。	<input type="checkbox"/>
第10回	動機・楽節・形式を生かした演奏表現と鑑賞	グループ内で互いの演奏を聴きあい、それぞれの楽曲の特徴を動機・楽節・形式から理解し、その良さを演奏で表現したり聴きとったりする。	<input type="checkbox"/>
第11回	へ長調と変口長調の主音・音階・コード	へ長調と変口長調の主音を基盤とした音階とコード（主要3和音）を確認する。	<input type="checkbox"/>
第12回	ト長調と二長調の主音・音階・コード	ト長調と二長調の主音を基盤とした音階とコード（主要3和音）を確認する。	<input type="checkbox"/>
第13回	速さ・強さに関する表現と表示の方法	速さ・強さに関する表現と表示の方法を知り、変化のある演奏方法を理論と実践から理解する。	<input type="checkbox"/>
第14回	曲想・奏法に関する表現と表示の方法	曲想・奏法に関する表現と表示の方法を知り、表情豊かな演奏方法を理論と実践から理解する。	<input type="checkbox"/>

第15回	楽曲分析に基づいた演奏表現の実践と鑑賞（クラス内発表）	基礎的なコード和声理論と楽式論をもとに楽曲分析をして曲の特徴を理解し、音楽的な意図を持って演奏発表を行い、その良さを互いに聴き合う。	□
------	-----------------------------	--	---

<p>■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)</p> <p>事前学習として、練習の過程で疑問に思うこと・質問したいことなどをノートに整理する(2時間程度)。事後学習として、授業で明確になった課題を楽譜に書き込み、コードや形式等から楽曲分析をするともに演奏の習得を目指し練習する。(2時間程度)。</p>

<p>■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)</p> <p>提出された課題は添削しコメントをつけて返却する。</p>
--

<p>■授業の到達目標と評価基準(Course goals)</p>		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	基礎的なコード・和声理論と楽式論をもとに楽曲分析をして曲の特徴を理解し、音楽的な意図を持って表現の工夫をすることができる。

<p>■成績評価(Evaluation method)</p>				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
	40%			60%
<p>授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)</p> <p>その他は、平常の授業での取り組みおよびクラス内演奏発表の評価を含む。</p>				

<p>■テキスト(Textbooks)</p>		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト/カワイ出版	9784760903382
2		
3		
4		
5		

<p>■参考図書(references books)</p>		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	3つのコードで楽しく弾けるピアノ伴奏曲集/ドレミ楽譜出版	9784285144611
2		
3		
4		
5		